



人形浄瑠璃 清和文楽
ONE PIECE
超馴鹿船出冬桜
Chaper, sailing from the winter solstice

© 尾田栄一郎 / 集英社 © 清和文楽新作制作事業実行委員会

「超馴鹿船出冬桜」は多くの人々の目に留まるまたとないチャンス。それならばと熊本のアートを詰め込み、私は、人々との縁を繋ぐ役として、今回、それぞれの人がリスペクトし合って一つのものを作り上げ、演者も共に楽しんでもらえる舞台にしたいと思っております。この舞台がきっかけで清和文楽をはじめとした熊本文化が広がり、次の世代に伝えて欲しいと願っております。

総合演出・音楽監修 藤原道山

山都町に泊まり込み、清和メンバーや市民参加者の方々と過ごした日々は、忘れられぬ思い出となっただけでなく、人と出会って絆を結び、創造に挑むことの喜びを改めて噛みしめられた幸せな時間でした。初日の朝、田中真弓さんが「野郎ども出航だ！」と叫んでくれた時、本当に皆でひとつの船に乗っているようで、魂が海賊のように荒ぶりました。

脚本・演出 横内謙介

道山先生、横内先生の指導、また多くの方々の協力により2回の公演を成功させる事が出来た事に、感謝しています。

今後は、文楽館での公演に向けて、練習に励みたいと思います。

清和文楽人形芝居保存会

会長 片山勇次

記者発表から初演までの約3か月という短い期間の中、本番での感動は今でも忘れられません。この新作をきっかけに若い世代にも清和文楽への関心を持ってもらえるよう、これからも稽古に励みます。

清和文楽館 太夫 渡邊奈津子

先生方のご指導、一般の方々のご参加により、今までの浄瑠璃とは違った新作を無事終えることが出来ました。演じながらも感動し、最高のものになっています。

これから新作に限らずどの世代が鑑賞していただいても感動して頂けるように稽古に励みたいと思います。

清和文楽館 三味線 岡本翔